

## チェコ モラビア・ブレスコ州 ビー・イーチン校 友高 さん

留学期間 H29.8.25～H30.6.30

### 1 留学の成果

私は高校三年生の夏から一年間チェコ共和国に留学していました。この一年間で、留学しなかったら経験出来なかったであろう沢山の体験をしました。その中には、パーティーで寿司を振舞ったり、チェコ合唱団の日本語指導をしたりなど（これらのエピソードはまたの機会に！）日本人として活動する場面もありました。しかし英語キャンプに参加した事が、最も印象に残る体験でした。そしてその体験は、私を一番変えてくれました。

この英語キャンプは私を含めた各国6人の留学生がチェコの小学生と英語でコミュニケーションをとりながら、二泊三日共にすると言うものでした。私はこのキャンプに参加しようか物凄く悩みました。なぜなら英語の発音が上手でなく、伝わらない事が多々あり、英語に対して恐怖心があったからです。「もし、彼らが自分より英語が話せたり、私の英語が理解出来なかったらどうしよう」と不安な気持ちでいっぱいでした。しかし元々ボランティア活動をしたかったのと、この恐怖心を克服すべく参加する事にしました。

キャンプでは6グループに別れ、留学生達はそのグループのリーダーとして小学生と一緒にゲームをしたり木の家を作ったりしました。彼らは覚えたての英語を駆使しながら沢山の話や質問をしてくれました。自分よりも小さい子供たちがひたむきに努力している姿をみて、私は感動すると共に勇気づけられました。また英語が伝わらず諦めようとしていた小学生に対して「理解したいから諦めないで話して」と言っていた他の留学生がいました。この光景を見て話す事を怖がっていた自分が馬鹿らしく思えてきました。「理解しよう」というその彼らの姿勢によって心が軽くなり、そして恐怖心も幾分か薄まりました。これを期に私は積極的に英語を使えるようになり、また伝わらない時でも怖気づかず、話せるようになりました。

チェコでは小学生（7歳）から英語の授業が始まります。その授業では文法や語彙はもちろんですが、話す事により重点がおかれています。またこのキャンプのように、実践的な場も用意されています。チェコの世界では英語を使う事は当たり前になりつつあります。（私のホストファミリーは英語が苦手でしたが）

チェコで体験したことは、自分の物事に対する考え方や受け止め方を変えました。たとえそれが小さな変化だったとしても、自分にとって大切な変化でした。高校三年生の夏、留学して本当に良かったと思います。

## 2 履修状況、課外活動等

### (1) 履修科目

チェコ語、英語、地理、数学、生物、音楽、体育

### (2) 課外活動および受賞歴等

社交ダンスクラブ、ヨガレッスン、合唱部（日本語発音指導として参加しました。）

## 3 今後の活動予定

日本の大学に進学して、私が興味をもつ「サブカルチャー」の分野について学ぶと共に、外国の文化も専門的に学びたいと思います。またお世話になった留学団体のボランティアをしたいです。

## 4 記録写真



4月に参加したウィーン日帰り研修の時の写真です。奥に見える黄色の建物は、ハプスブルク家の夏の離宮、シェーンブルン宮殿です。

6月に参加したAFSのキャンプです。紙には留学を一言で表す単語が書かれています。

私は「ファミリー」と書きました。日本の家族にもチェコの家族にもとてもお世話になり、そして支えて貰ったからです。





5月の英語キャンプでの写真です。一緒に写っているのは、同じグループだったチェコ人の小学生達です。発想豊かで好奇心旺盛な子供達でした。とても慕ってくれてまるで本当の姉妹のように感じました。

4月にあったパーティーで寿司を振舞った時の写真です。マグロの巻き寿司、握り寿司、大根の酢の物等を作りました。「レストランはどこにあるの？」と質問されたときは思わず心の中でガッツポーズしていました。

